

茶人の系譜

1400

村田珠光 (1423-1502)

侘茶の始祖といわれる人物。詳しい経歴はわかっていないが、大徳寺の二休宗純に参禅し、茶人として名をあげて足利義政に仕えたとも伝えられる。弟子に与えた「心の文」は次代の茶人たちに大きな影響を与えた。



足利義政 (1436-1490)

室町幕府第8代將軍。將軍家の唐絵や唐物、茶湯道具が同朋衆と呼ばれる側近らによって管理、鑑定され、座敷飾りが確立したのはこの義政の時代。室町時代の茶湯を語るうえで欠かすことのできない人物。



1500

武野紹鷗
(1502-1555)

堺の豪商。禅の理解が深く、また連歌を三条西実隆に学ぶ。そして村田珠光の精神を継いで侘茶を広め、千利休が師事したことで知られる。



千利休 (1522-1591)

茶の湯の大成者。唐物を中心とした書院台子の茶と、侘茶を融合した新しい茶の湯を創り上げた。織田信長、豊臣秀吉と天下人の茶頭をつとめ、天下一の宗匠と称された。



古田織部 (1544-1615)

豊臣秀吉に仕えた戦国武将であり、千利休に師事した茶人として知られる。利休の最も近くにあり、その創造性に富んだ茶風を受け継いで、安土桃山〜江戸初期の茶の湯を先導した一人である。



小堀遠州 (1579-1647)

徳川將軍に茶を指導した大名茶人。古田織部に茶を学ぶ。織部亡き後、「きれいなさび」と呼ばれる気品高い、洗練された茶風によって、將軍家はじめ江戸における武家の茶の湯を導いた。



1700

松平不昧 (1751-1818)

江戸後期、松江藩主をつとめた大名茶人。小堀遠州に倣い、古典をたどり、名物道具を収集して『古今名物類聚』を著す。その精神は近代数寄者と呼ばれる人々にも大きな影響を与えた。



1800

平瀬露香 (1839-1908)

大阪の金融界の重鎮で、和歌や有職故実、能楽、華道などにも傾倒した文化人として知られる。



藤田香雪 (1841-1912)

建築、金融、紡績などを手がけた関西の財閥、藤田組の創始者。第一級の古美術収集でも知られ、コレクションは現在の大阪・藤田美術館の礎となっている。



益田鈍翁 (1848-1938)

田三井物産の初代社長として知られる実業家。仏教美術をはじめ、日本の古美術に造詣が深く、一大コレクションを築いた。また、その高い鑑識眼に基づいて、晩年、茶の湯に傾倒したことで有名。



原三溪 (1868-1939)

横浜を拠点に生糸貿易で財をなした実業家。安田靉彦ら若手芸術家の育成や横浜・三溪園の造園でも知られる。



1900